　令和三年九月

漢詩鑑賞

**鄂渚南樓書事　　のにてをす**

**四顧山光接水光　　　　にす、**

**凭闌十里芰荷香　　にれば　　し**

**淸風明月無人管　　　　のするく**

**併作南樓一夜涼　　せてすの**

【通釈】起句　楼上から四方を眺めると、はるかな山々の色と、長江の水

　　　　　　　面の色が相接して見える。

　　　　承句　欄干にもたれていると、十里のかなたまで一面にひろがっ

　　　　　　　ている「ひし」と「はちす」のよい香りがただよって来る。

　　　　転句　更に、この清風と明月はだれのものでもなく、存分に味わ

　　　　　　　ってさしつかえのないもの。

　　　　結句　この両者を得て、ここ鄂州の楼上一夜の涼が一段と趣深い

　　　　　　　ものとなっているのだ。

【語釈】　鄂渚　　地名。湖北省武昌の西。長江に沿う。

　　　　　南樓　　黃庭堅の書楼と解す。

　　　　　書事　　所見、所感を書きしるす意。

　　　　　四顧　　四辺を見まわす。

　　　　　山光　　山の色。山の景色。

　　　　　水光　　水面の光。水面の色。

　　　　　闌　　　欄干。手すり。

　　　　　芰荷　　芰はひし。荷ははす。

【押韻】　平声、陽韻。光、香、涼。

【解説】　黃庭堅（一〇四五－一一〇五）は北宋の詩人。二十三歳で科挙に及第したが、新法党、旧法党の政争にまきこまれて浮沈多く、中央の要職に就くこと無く、殆ど地方官僚の生涯を送った。

　　　　　三十四歳の時、九歳年長の蘇軾に詩を贈って絶賛されその門下に入り蘇門四学士の一人に数えられた。北宋を代表する詩人の一人である。

　　　　　又書家としても有名。特に草書にすぐれた。

　　　　　晩年五十八歳の九月から五十九歳の十二月の間、鄂州に滞在したので､この詩はその間の作と考えられる。

詩は、平易な表現の裏に、長江に沿った水辺の地鄂州の情景を美事に詠じている。

転句の「淸風明月無人管」は彼が師と仰ぐ蘇軾が鄂州に近い黃州に在って作った赤壁賦（一〇八二年作）の「‥‥惟江上之淸風、興山間之明月、‥‥､取之無禁、用之不竭、‥‥」からの引用であることは明らかで、この詩は赤壁賦と併せ鑑賞すると一層味わい深いものとなる。じっくりと味わいたい作品です。

以上